

消化器外科 I に通院中または通院されていた患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 肝切除における C チューブ留置例の検討

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 病院長 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 北海道大学大学院消化器外科学教室・准教授 神山 俊哉

[研究の目的]

C チューブは胆嚢管から総胆管内に留置する細径のチューブであり、胆汁を体外に排出(ドレナージ)して胆管内を減圧することで、肝切除後に胆汁漏の予防および治療に使用することがあります。

この研究は、肝切除術における C チューブのメリット、デメリットおよび短期成績を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

平成 21 年 1 月 1 日から平成 30 年 10 月までに肝切除の治療を受けた方

○利用するカルテ情報

- ① 年齢
- ② 性別
- ③ 診断名
- ④ 血液検査(白血球、ヘモグロビン、血小板、肝炎ウイルスマーカー、PT、アルブミン、ビリルビン、AST、ALT、 γ GTP、ALP、Che、HBA1c、ICG15 分値、AFP、PIVKA-II、CEA、CA19-9)
- ⑤ 術式
- ⑥ 出血量、手術時間
- ⑦ 術後合併症
- ⑧ 病理組織診断結果(腫瘍径、部位、脈管侵襲、分化度、肉眼型、背景肝の線維化)
- ⑨ 転帰(術後在院期間、C チューブ抜去までの期間、生存期間、無再発生存期間)

※肝切除後、6 か月間のカルテ情報を利用します。

[研究実施期間] 実施許可日～2020年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北区北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院消化器外科 I 担当医師 島田 慎吾

電話 011-706-5927